

後援事業終了報告書

事業	後志教育講演会
主催者名	後志教育講演会実行委員会 一般財団法人北海道公立学校教職員互助会
後援団体名	・北海道教育庁後志教育局 ・後志町村教育委員会協議会 ・倶知安町教育委員会 ・小樽市教育委員会 ・後志小中学校校長会 ・小樽市校長会 ・後志小中学校教頭会 ・小樽市教頭会 ・後志へき地・複式教育研究連盟 ・後志社会教育主事会
実施期日	令和8年8月3日（月） 14：00～16：00
実施会場	ホテル第一会館プラザホール 倶知安町南3条西2丁目 ※問合せ先 後志教育研修センター（TEL0136-22-1337）
参加対象者及参加人数	・管内の教職員、教育関係者、地域住民 87名
入場料金（講習料・参加料）	・無料
事業の内容	教育講演会 ・講師 岡田沙也加 氏（気象予報士） ・演題 『天気予報の裏側と気象災害に備える知識』
事業実施による効果	グローバル化や情報化、少子高齢化など社会の急激な変化に伴い、高度化・複雑化する諸課題への対応が必要となっている。 これに伴い、21世紀を生き抜く力を育成するため、学校は、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の形成等が求められている。 そうした中で、地域と連携し、一人一人が知識だけでなく体験活動を通じ環境保全に対する理解と関心を深め、具体的な行動に結びつけられる「環境教育の推進」が重要になっている。 学習指導要領解説総則編においては、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の例として「自然環境や資源の有限性等の中で持続可能な社会をつくる力」が示され、様々な教科等を通じて環境教育に横断的に取り組むこととされている。 現在、「異常気象が平常気象になりつつある」と言われ始めており、人類の生存と繁栄にとって緊急かつ重要な課題が山積している。持続可能な社会を構築するために、協働・共創を通して、学校や地域における質の高い環境教育を実践・推進することが求められている。 講演では、気象予報士の仕事の話から始まり、自然災害の損害額が一人あたりだと世界の中で日本が22.5万円と1位になっており、災害ごとに見ても、東日本大震災と阪神・淡路大震災が世界のトップ2になっているとの紹介があった。 令和8年5月から大きく変わった気象警報についての解説、熱中症への対応の仕方、大雨時に備えるための知識などが説明された。 また、後志の地震の断層帯、岩内町の大火、寿都町の強風、余市町の大雨、小樽市の浸水、京極町の豪雨、倶知安の大雪、羊蹄山の雪崩等、身近な地域での事例を挙げた、わかりやすい説明があった。 特に、天気予報図の見方や気象災害に係る情報収集の方、食糧・飲料水・トイレに関わる防災備蓄については、参加者が改めて気づかされることが大きく、役立つ知識が多くあった。 天気予報は、日々の生活のためだけでなく、刻々と変化する気象や災害から身を守るための重要な情報であり、学校・家庭での防災意識の向上に役立つものとなった。 世界の新しい価値観に触れ、子どもたちへの指導にも、より良い影響が還元できるものとなった。 更に、映像で示された「2100年、未来の天気予報」では、学びが大きくあり、環境教育として生かされる部分が数多く、有意義な講演会となったことが、アンケートからも読み取ることができた。
備考	本教育講演会の概要を、センターのHP等に掲載し、教職員等に情報を提供していく。